

# 草木町遺跡発掘調査報告書

2 0 2 5

株式会社 文化財サービス





1. 調査地周辺遠景（北から）



2. 調査地上空から双ヶ丘・比叡山方面を臨む（西から）







1. 調査区垂直写真（上が北）



## 例 言

- 1 本書は、京都市右京区常盤草木町 18・19・20 番地で実施した、草木町遺跡における発掘調査（京都市番号 24S219）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、株式会社エクシード（代表取締役 多井眞哉）による宅地開発に伴い実施した。
- 3 現地調査は、株式会社エクシードより株式会社文化財サービス（以下、「文化財サービス」という）に委託され、高橋 潔が担当し、大西晃靖（文化財サービス）が補佐した。
- 4 調査期間は、令和 7 年（2025）1 月 27 日より 2 月 18 日までである。
- 5 調査面積は、90 m<sup>2</sup>である。
- 6 本文・図中の方位・座標は世界測地系（VI 系）による。標高は T.P.（東京湾平均海面高度）である。
- 7 土層、出土遺物の色調は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準拠した。
- 8 本書の執筆は高橋が行い、編集は高橋と興梠千春（文化財サービス）が行った。
- 9 現地での記録写真などの撮影は高橋、出土遺物の撮影は神野いくみ（文化財サービス）が行った。
- 10 現地での重機掘削、調査に係る資機材のリースおよび仮設工事は株式会社 Soid に依頼した。
- 11 調査に係る資料は、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下、「文化財保護課」という）が保管している。
- 12 発掘調査および整理作業の参加者は、以下の通りである。

[発掘調査] 上田智也、小林一浩、吉岡創平（以上、文化財サービス）、  
作業員（株式会社京カンリ）

[整理作業] 内牧明彦、神野いくみ、甲田春奈、田中慎一、西尾知子、溝川珠樹、  
吉川絵里（以上、文化財サービス）
- 13 出土遺物の年代観については、下記文献を参照した。

平尾政幸「土師器再考」『洛史 研究紀要』第 12 号 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所  
2019 年

日本中世土器研究会『新版 概説 中世の土器・陶磁器』真陽社 2022 年



# 目 次

## 第Ⅰ章 調査の経緯

|                 |   |
|-----------------|---|
| 1 調査に至る経緯       | 1 |
| 2 調査の経過         | 1 |
| 3 測量基準点の設置と地区割り | 3 |
| 4 整理作業・報告書作成    | 3 |

## 第Ⅱ章 位置と環境

|               |    |
|---------------|----|
| 1 地理的環境と歴史的環境 | 5  |
| 2 既往の調査       | 10 |

## 第Ⅲ章 調査成果

|        |    |
|--------|----|
| 1 基本層序 | 14 |
| 2 遺構   | 14 |
| 3 遺物   | 19 |

|         |    |
|---------|----|
| 第Ⅳ章 まとめ | 21 |
|---------|----|

# 図版目次

|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 巻頭図版 1 | 1. 調査地周辺遠景（北から）             |
|        | 2. 調査地上空から双ヶ丘・比叡山方面を臨む（西から） |

|        |                 |
|--------|-----------------|
| 巻頭図版 2 | 1. 調査区垂直写真（上が北） |
|--------|-----------------|

|         |                  |
|---------|------------------|
| 図版 1 遺構 | 1. 調査区全景 1（北から）  |
|         | 2. 調査区全景 2（南西から） |

|         |                    |
|---------|--------------------|
| 図版 2 遺構 | 1. 調査区南壁断面（北東から）   |
|         | 2. 溝038断面（東から）     |
|         | 3. 溝038・041断面（東から） |
|         | 4. 溝039断面（東から）     |
|         | 5. 溝040断面（東から）     |

|         |                    |
|---------|--------------------|
| 図版 3 遺構 | 1. 土坑050断面（南西から）   |
|         | 2. 土坑050完掘状況（南東から） |

|            |                       |
|------------|-----------------------|
| 図版 4 遺構・遺物 | 1. ピット033根石検出状況（北西から） |
|            | 2. 出土遺物               |



## 插图目次

|     |                           |    |
|-----|---------------------------|----|
| 図 1 | 調査地位置図（1：2,500）           | 1  |
| 図 2 | 調査経過写真                    | 2  |
| 図 3 | 調査区割・基準点配置図（1：100）        | 4  |
| 図 4 | 周辺遺跡分布図（1：25,000）         | 6  |
| 図 5 | 調査地点および遺跡既往調査地点図（1：3,000） | 11 |
| 図 6 | 調査区南壁・西壁断面図（1：50）         | 15 |
| 図 7 | 調査区平面図（1：100）             | 16 |
| 図 8 | 個別遺構実測図（1：20）             | 18 |
| 図 9 | 出土遺物実測図（1：4）              | 20 |

## 表目次

|     |              |    |
|-----|--------------|----|
| 表 1 | 周辺遺跡一覧       | 7  |
| 表 2 | 草木町遺跡既往調査一覧表 | 12 |
| 表 3 | 遺構概要表        | 14 |
| 表 4 | 遺物概要表        | 19 |



# 第Ⅰ章 調査の経緯

## 1 調査に至る経緯（図1）

調査地は京都市右京区常盤草木町18・19・20番地に所在し、草木町遺跡の範囲内にあたる。当地に株式会社エクシードにより宅地造成の計画がなされたため、文化財保護課が試掘調査を実施した。その結果、当地の北寄りの箇所で鎌倉時代および室町時代の遺構・遺物の存在が確認され、部分的な発掘調査の実施が必要と指導された。発掘調査は原因者である株式会社エクシードより、文化財サービスに委託された。

## 2 調査の経過（図2）

令和7年（2025）1月27日に現地にて、原因者による地鎮祭が執り行われ、その後、発掘調査に係る占有範囲に境界フェンスを設置し、文化財保護課が設定した調査区の縄張りなどの準備工を実施した。調査区は東西6.0m、南北15.0mで、面積は90.0㎡である。発掘調査区の掘削は翌28日に重機を搬入して実施した。

重機掘削は文化財保護課が実施した試掘調査の成果に基づき、表土・盛土および旧耕作土を除去し、遺構面とされる基盤層（地山層）上面を検出する形で行った。以降の作業は人力で行い、おおむね遺構検出、攪乱掘削、遺構掘削の順に進めた。当初、文化財保護課の指導の通り、基盤層上面で鎌倉時代と室町時代の二時期の遺構を確認する方針であったが、検出時点において各遺構の明確

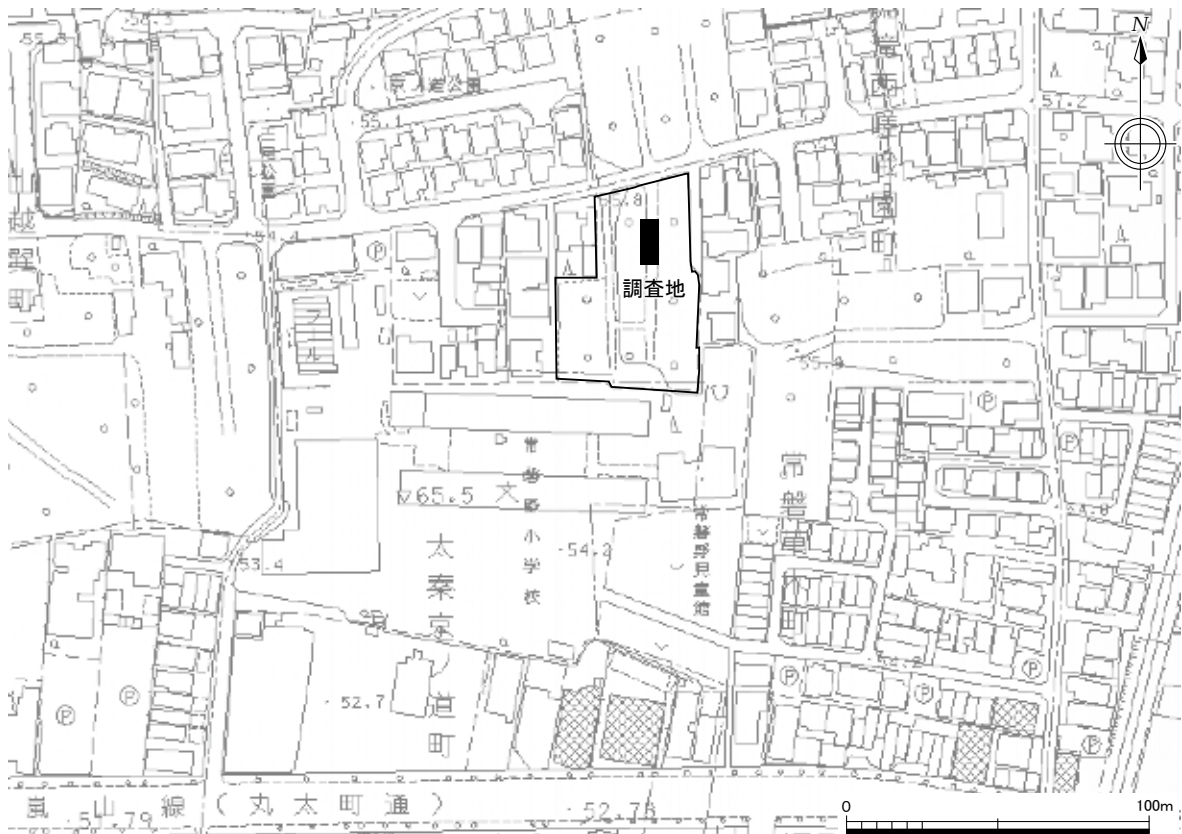


図1 調査地位置図（1：2,500）





1. 調査前地鎮祭風景（南西から）



2. 調査区設定状況（北から）



3. 重機掘削作業（西から）



4. 遺構掘削作業（南東から）



5. 全景撮影前清掃作業（北西から）



6. 土坑掘削作業（北東から）



7. 埋め戻し作業（北から）



8. 調査完了状況（北から）

図2 調査経過写真



な時期分けが難しかったため、すべての遺構を重複関係の確認を行いながら順に掘削することとした。2月12日に記録写真として全景撮影およびドローンによる景観写真・垂直写真の撮影を実施した。記録写真の撮影には35mmフルサイズ・デジタルカメラを中心に、35mm白黒フィルムおよびリバーサルフィルムカメラを使用した。遺構図面はドローン撮影の垂直写真をもとにオルソ写真測量による調査区全体の遺構実測図を作成し、随時、手測りによる実測図を作成し補完した。調査は2月14日までで終了し、翌週17日に重機を搬入して埋め戻し・整地を行い、18日に資機材を撤収して、現地での作業をすべて終了した。

現地調査においては、1月27日に調査区設定状況、30日に遺構検出状況、2月14日に遺構完掘状況について文化財保護課の検査および指導を受けた。また、調査の最終段階である2月14日には本調査検証審査員である梶川敏夫氏（元・京都市考古資料館館長）に現地視察、調査成果の検証を行っていただき、助言を頂戴した。

### 3 測量基準点の設置と地区割り（図3）

測量基準点は、VRS測量により調査敷地内にT. 1、T. 2の2箇所設置した。基準点の測量成果は以下の通りである。

T. 1      X = -108,375.110 m      Y = -27,074.080 m      H = 56.272 m

T. 2      X = -108,391.706 m      Y = -27,070.785 m      H = 56.141 m

この基準点を基に、調査区内にはX・Yの整数の交点3m毎に木杭を設置し、グリッドを設定した。

### 4 整理作業・報告書作成

現地調査終了後、整理作業および報告書作成を行った。整理作業は写真・図面の整理を行い、それぞれ台帳を作成した。これと並行して出土遺物の整理、洗浄、点検、接合、実測、写真撮影を実施した。報告書の執筆は調査担当の高橋が行い、図面の調整、遺物実測図のトレース、編集作業は興梠のほか、当社社員が分担して行った。

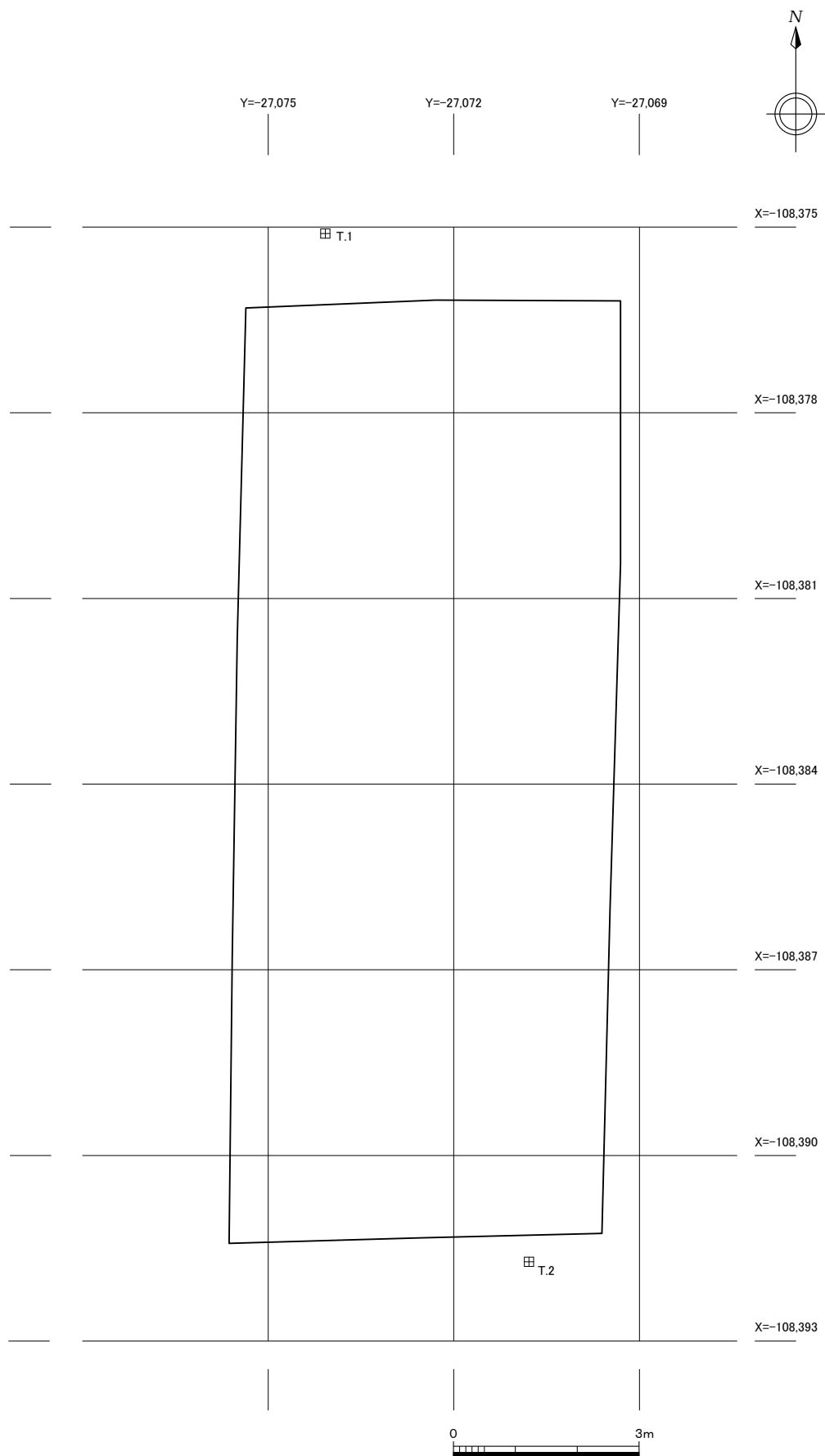


図3 調査区割・基準点配置図（1：100）

## 第Ⅱ章 位置と環境

### 1 地理的環境と歴史的環境（図4、表1）

当地周辺は京都盆地北半の北西部、北に標高600～800mの丹波山地が聳え、西と南は西から南東へ蛇行しながら流れる桂川が画する、いわゆる「嵯峨野」に含まれる。嵯峨野の東を限る独立丘陵・双ヶ岡丘陵、南流する御室川の西、北から南へ緩やかに傾斜する低位段丘上に草木町遺跡は立地している。

歴史的には、京都盆地全体の動向とおおきな隔たりはなく、後期旧石器時代の末期、約3万年前ごろとみられる石器群が広沢池遺跡（3）で確認されており<sup>(1)</sup>、当地における人々の活動の端緒とされる。縄文時代・弥生時代の遺跡の確認は少なく、村ノ内町遺跡（5）で縄文時代中期の土坑<sup>(2)</sup>、和泉式部町遺跡（6）で弥生時代中期の竪穴建物<sup>(3)</sup>が検出されている。また、1963年梅ヶ畑の丘陵中腹で宅地造成中に弥生時代中期の銅鐸4個体が出土した梅ヶ畑遺跡（7）があり、京都盆地唯一の銅鐸出土地として特筆される<sup>(4)</sup>。

古墳時代では、和泉式部町遺跡（6）で前期から中期にかけての竪穴建物群が確認された。中期の竪穴建物には初期須恵器や韓式系土器が出土するものがあり、韓半島との関連で注目される<sup>(5)</sup>。また、後期には特に古墳の築造（8～41）が増加し、集落遺跡（42～46）も大規模なものがみられるようになる。太秦地域を中心に当地域における本格的な開発の開始期として、飛鳥時代以降大きく勢力を広げたとされる、渡来系氏族の一つ、秦氏と関連付けて考えられている。古墳は多くが小型で、いわゆる群集墳であるが、当地域の首長墓の系譜とみられる前方後円墳や大型円墳、巨石を用いた横穴式石室を持つものも一定程度みられる。しかし、近代以降の開発に晒され、全壊あるいは半壊のものが大半を占めており、消失してしまったものも多い。

飛鳥時代には広隆寺前身・広隆寺旧境内（47）が創建される。当地周辺を根拠地の一つとした秦氏の長、秦河勝が推古30年（622）に聖徳太子より仏像を下賜されて建立したと伝わり、秦公寺、蜂岡寺、葛野寺とも称されたとされる<sup>(6)</sup>。

延暦13年（794）10月22日（『日本紀略』）、長岡京から平安京（55）へ遷都が実施された。これにより、それまで五畿内の内に列せられてはいたものの、北縁に過ぎなかった京都盆地・山背国は、遷都とともに首都となり、それを支える中心地・山城国へと転じることとなった。嵯峨野地域にも天皇や皇族などの発願による寺院が多く建てられるようになり、平安時代には仁和寺（58）およびその院家（69）や四円寺（65～67・77）など、室町時代には等持院（75）、妙心寺（76）、竜安寺（77）などが建立される。また、西部の嵐山周辺には鎌倉時代に亀山殿が築造されて以降、天龍寺などの禅宗寺院や別業などが多く建立されており、嵯峨遺跡（73）と総称されている。

当地周辺は『和名抄』に記載のある葛野郡田邑郷にあたり、のちに常盤と称された。常盤の由来は『続日本後記』承和14年（847）10月20日条に「左大臣源朝臣常山庄在丘南」とあり、この辺りに嵯峨天皇皇子で、臣籍降下した源朝臣常（ときわ、812～854）の山荘があったことによるという

(『山城名勝志』)。近世には、常盤一帯は仁和寺領として、菜種・実綿・柿子・茶葉などを納めていた(『京都府地誌』)とされ、長らく田園地帯であった。

戦後、当地も含め、これら田畑の多くは造園業者の樹木園へと転換され、さらに近年は宅地開発が進められてきている。

なお、遺跡の北西の丘陵上にある太秦<sup>さんのお</sup>三尾古墳(9)は「文徳天皇田邑陵」とされ宮内庁が管理している。江戸時代には、第55代文徳天皇(827～858)の御陵は西京区御陵にある天皇ノ杜古墳(古墳時代前期末、前方後円墳、全長82m)があてられていたが、幕末・文久の修陵に伴い、見直されて現陵が比定された。文久の修陵以前の様子は「封土いたく崩壊落て、御石槨の蓋石、また隧道の蓋石も、かつ露出たり」(谷森善臣『山陵考』山城国 上)<sup>(7)</sup>とあって、石棺の一部や石室の蓋石が露出していたことが記されており、本来は横穴式石室を持つ古墳時代後期の古墳(円墳)とみられる。現状では包蔵地として遺跡登録はされていない。また、『延喜式』諸陵寮では、神代三陵(瓊瓊杵尊・彦火火出見尊・鸕鷀草葺不合尊の陵墓)はいずれも日向国とされているが、これらの記述に続き「已上神代三陵、於山城国葛野郡田邑陵南原祭之、其兆域東西一町、南北一町」とあって、平安時代には田邑陵の南の原に東西・南北一町の祭場を設け祀っていたと記されている。この祭場の明確な位置は不明だが、当地周辺である可能性も考えられる。



図4 周辺遺跡分布図(1:25,000)



表 1 周辺遺跡一覧

| 番号 | 史跡・名勝・遺跡名 | 主な時代                  | 概要                                                       | 遺跡番号     |
|----|-----------|-----------------------|----------------------------------------------------------|----------|
| 1  | 嵐山        | －                     | 国史跡・名勝。桂川に架かる渡月橋付近一帯の景勝地。                                | A809・953 |
| 2  | 雙ヶ岡       | －                     | 国名勝。古生層の孤立丘陵、三つの丘が連なる。                                   | A818     |
| 3  | 広沢池遺跡     | 旧石器                   | 散布地。                                                     | 863      |
| 4  | 広沢西裏遺跡    | 縄文・弥生                 | 散布地。                                                     | 865      |
| 5  | 村ノ内町遺跡    | 縄文中期・弥生後期・古墳後期～飛鳥・室町～ | 集落跡。2010 年の調査で縄文中期の土坑、古墳後期から飛鳥の堅穴建物など、室町以降の溝・掘立柱建物などを検出。 | 907      |
| 6  | 和泉式部町遺跡   | 弥生中期～古墳後期             | 集落跡。堅穴建物を多数検出、韓式土器の出土で注目される。                             | 914      |
| 7  | 梅ヶ畑遺跡     | 弥生中期                  | 祭祀遺跡。1963 年宅地造成工事中に銅鐸 4 個が 2 個ずつ入子状態で発見。                 | 856      |
| 8  | 仲野親王墓古墳   | 古墳後期                  | 前方後円墳（全長 75 m）。宮内庁管理。仲野親王高島陵。垂筈山古墳・片平大塚古墳ともいう。           | 879      |
| 9  | 太秦三尾古墳    | 古墳後期                  | 円墳。宮内庁管理。文徳天皇田邑陵。横穴式石室か？詳細不明。                            | —        |
| 10 | 常盤御池古墳    | 古墳後期                  | 円墳（径 20 m 以上）。横穴式石室。                                     | 875      |
| 11 | 五位山古墳     | 古墳後期                  | 円墳。全壊。                                                   | 877      |
| 12 | 安井馬塚古墳群   | 古墳後期                  | 円墳 2 基。全壊。詳細不明。                                          | 890      |
| 13 | 和泉式部塚古墳   | 古墳後期                  | 円墳（径 17 m 前後か）。                                          | 882      |
| 14 | 千首塚古墳     | 古墳後期                  | 円墳（径約 23 m）。全壊。                                          | 883      |
| 15 | 鳴滝藤ノ木町古墳  | 古墳後期                  | 詳細不詳。全壊。須恵器 2 点寄贈。                                       | 942      |
| 16 | 千代ノ道古墳    | 古墳後期                  | 円墳（径 16 m・高 2.5 m）。方墳の可能性あり。横穴式石室。                       | 880      |
| 17 | 太秦馬塚古墳    | 古墳後期                  | 円墳。全壊。詳細不明。                                              | 878      |
| 18 | 常盤柏ノ木古墳群  | 古墳後期                  | 前方後円墳 2 基。1 基は所在不明。全壊。                                   | 872      |
| 19 | 常盤馬塚古墳    | 古墳後期                  | 墳形不明。全壊。横穴式石室。                                           | 871      |
| 20 | 常盤稻荷塚古墳   | 古墳後期                  | 円墳。全壊。詳細不明。                                              | 873      |
| 21 | 巽古墳       | 古墳後期                  | 円墳か。全壊。1986 年調査で横穴式石室検出、須恵器、鉄製品（刀子、鏃、鏃）、金銅製馬具出土。         | 870      |
| 22 | 天塚古墳      | 古墳後期                  | 国史跡。前方後円墳（全長 71 m）。後円部に横穴式石室 2 基。                        | A808     |
| 23 | 清水山古墳     | 古墳後期                  | 前方後円墳（全長 60 m、前方部幅 27.3 m・高 3 m、後円部径 31 m・高 4 m）。全壊。     | 885      |
| 24 | トウゴロ山古墳   | 古墳後期                  | 円墳（径約 20 m）。半壊。                                          | 889      |
| 25 | 蛇塚古墳      | 古墳後期                  | 国史跡。前方後円墳とされるが墳丘全壊。巨石使用の横穴式石室。                           | A807     |
| 26 | 甲塚古墳      | 古墳後期                  | 円墳（径 38 m・高 5.5 m）。全壊。横穴式石室（全長 14.4 m）。                  | 855      |
| 27 | 一本木古墳     | 古墳後期                  | 円墳（径 25 m・高 2 m）。全壊。横穴式石室。                               | 850      |
| 28 | 双ヶ岡古墳群    | 古墳後期                  | 双ヶ岡丘陵上に円墳 19 基。一ノ丘古墳（1 号墳）は径 44 m、高 7.75 m で巨石使用の横穴式石室。  | 876      |
| 29 | 常盤東ノ町古墳群  | 古墳後期                  | 円墳（径 20 m 前後）16 基以上。いずれも横穴式石室。                           | 874      |
| 30 | 南野古墳群     | 古墳後期                  | 円墳 4 基。半壊。横穴式石室。1 基は径 40 m、高 6 m。                        | 854      |

| 番号 | 史跡・名勝・遺跡名   | 主な時代    | 概要                                                                                                 | 遺跡番号 |
|----|-------------|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 31 | 三瓦山古墳群      | 古墳後期    | 円墳4基。全壊。横穴式石室。                                                                                     | 869  |
| 32 | 住吉山古墳群      | 古墳後期    | 円墳4基以上。横穴式石室。1基は径約17m、高約1.8m。                                                                      | 868  |
| 33 | 御堂ヶ池古墳群     | 古墳後期    | 円墳20数基。1号墳(径30m・高5.4m)、他は径10～20m、高1.8～5.5m。横穴式石室。1号墳は移築保存。                                         | 846  |
| 34 | 音戸山古墳群      | 古墳後期    | 円墳(径約10m・高2～3m)14基。方墳(一辺約9～13m・高約1m)3基。横穴式石室。                                                      | 847  |
| 35 | 山越古墳群       | 古墳後期    | 円墳17基。横穴式石室。                                                                                       | 845  |
| 36 | 長刀坂古墳群      | 古墳後期    | 円墳(径7～17m・高0.5～3m)31基。横穴式石室。                                                                       | 843  |
| 37 | 遍照寺山古墳群     | 古墳後期    | 円墳(径18.5m・高2m、径27m・高2.5m)2基。                                                                       | 844  |
| 38 | 広沢古墳群       | 古墳後期    | 円墳3基。横穴式石室。                                                                                        | 852  |
| 39 | 稲荷古墳        | 古墳後期    | 円墳(径20m・高5m)横穴式石室。広沢古墳群と同一群か。                                                                      | 851  |
| 40 | 嵯峨七ツ塚       | 古墳後期    | 円墳(径20～30m・高0.8～5m)7基。半壊。                                                                          | 842  |
| 41 | 松本古墳群       | 古墳後期    | 小墳2基。全・半壊。                                                                                         | 888  |
| 42 | 常盤仲之町遺跡     | 古墳後期～江戸 | 古墳後期から飛鳥を主体とする集落跡。竪穴建物・掘立柱建物多数検出。ほかに平安の掘立柱建物・溝、鎌倉～江戸の土壙墓など。                                        | 908  |
| 43 | 多藪町遺跡       | 古墳後期～平安 | 集落跡。                                                                                               | 916  |
| 44 | 西野町遺跡       | 古墳・平安   | 古墳後期を中心とする集落跡。奈良から平安の瓦が出土し、寺院跡の可能性もある。                                                             | 917  |
| 45 | 嵯峨野高田町遺跡    | 古墳後期～平安 | 集落跡。                                                                                               | 920  |
| 46 | 上ノ段町遺跡      | 古墳～平安   | 古墳後期の集落跡。平安の木棺墓検出。                                                                                 | 910  |
| 47 | 広隆寺旧境内      | 飛鳥～平安後期 | 現・広隆寺の前身寺院。創建、移転等については諸説があるが、推古30年(622)に秦河勝が建立し、秦公寺・蜂岡寺・葛野寺とも呼ばれたとされる。古墳後期から飛鳥の竪穴建物・土坑のほか、円筒埴輪も出土。 | 911  |
| 48 | 嵯峨折戸町遺跡     | 飛鳥～平安   | 平安を中心とする集落跡。飛鳥の遺物包含層も確認。                                                                           | 902  |
| 49 | 梅ヶ畑祭祀遺跡     | 奈良～平安   | 平安前期を主体とした丘陵頂部における祭祀遺跡。                                                                            | 857  |
| 50 | 一ノ井遺跡       | 奈良～室町   | 平安を中心とする集落跡。                                                                                       | 913  |
| 51 | 井戸ヶ尻遺跡      | 奈良～平安   | 遺物散布地。                                                                                             | 918  |
| 52 | 門田町遺跡       | 奈良～平安   | 遺物散布地。                                                                                             | 919  |
| 53 | 木嶋坐天照御魂神社境内 | －       | 市史跡。俗に「蚕の社」と呼ばれる延喜式内社。                                                                             | 822  |
| 54 | 阿刀神社        | 不詳      | 『延喜式神名帳』にある阿刀(あとの)神社。創建不明。阿刀氏が平安京遷都にあたり、河内国渋川郡(八尾市)からこの地に遷座したとされる。                                 | 904  |
| 55 | 平安京跡        | 平安前期～   | 桓武天皇により造営され、延暦13年(794)に長岡京から遷都された都城跡。                                                              | 1    |
| 56 | 梅津坂本町遺跡     | 平安前期～中期 | 集落跡。                                                                                               | 921  |
| 57 | 北嵯峨洞ノ内町遺跡   | 平安前期～中期 | 散布地。瓦が出土することから寺院跡の可能性あり。                                                                           | 862  |
| 58 | 仁和寺御所跡      | 平安      | 国名勝。光孝天皇発願。宇多天皇が造営。仁和4年(888)に創建の寺院。平成6年世界遺産に登録。                                                    | A803 |
| 59 | 安井西裏瓦窯跡     | 平安中期    | 平窯3基。                                                                                              | 898  |
| 60 | 森ヶ東瓦窯跡      | 平安中期    | 平窯1基。修理職所属の造瓦所と推定され、平安宮・京、広隆寺、大阪府高槻市郡家川西遺跡などに供給している。                                               | 897  |

| 番号 | 史跡・名勝・遺跡名   | 主な時代  | 概要                                                                                               | 遺跡番号 |
|----|-------------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 61 | 御所ノ内町遺跡     | 平安    | 集落跡。                                                                                             | 915  |
| 62 | 草木町遺跡       | 平安～室町 | 集落跡。                                                                                             | 901  |
| 63 | 遍照寺跡        | 平安    | 花山天皇の勅願により永祚元年（989）宇多法皇の孫にあたる寛朝僧正が開創した。広沢池西北隅の汀近くに方形の基壇（京都市史跡指定）が現存。                             | 864  |
| 64 | 龍安寺御陵ノ下町遺跡  | 平安～室町 | 集落跡。                                                                                             | 938  |
| 65 | 円教寺跡        | 平安中期  | 四円寺の一寺院。長徳4年（998）に一条天皇の御願寺として建立。                                                                 | 894  |
| 66 | 円乗寺跡        | 平安後期  | 四円寺の一寺院。天喜3年（1055）に後朱雀天皇の御願寺として建立。                                                               | 893  |
| 67 | 円宗寺跡        | 平安後期  | 四円寺の一寺院。延久2年（1070）に後三条天皇の御願寺として建立。                                                               | 892  |
| 68 | 香隆寺跡        | 平安～鎌倉 | 寺院跡。付近一帯は平安時代、皇室の茶毘所となった地域。                                                                      | 166  |
| 69 | 仁和寺院家跡      | 平安    | 双ヶ岡を挟んだ東西に仁和寺の院家として大教院・南院（常瑜伽院）・大聖院・真光院（蓮華心院）などが造られた。                                            | 891  |
| 70 | 法金剛院青女滝附五位山 | 平安    | 国特別名勝。庭園遺構で滝石組が完全に残る。                                                                            | 820  |
| 71 | 太秦馬塚町遺跡     | 平安後期  | 土坑多数、出土品から墓とみられ、墓域と推定。                                                                           | 909  |
| 72 | 法金剛院境内      | 平安後期  | 大治4年（1129）に待賢門院によって造られた寺院。以前には文徳天皇の御願による天安寺があったとされる。                                             | 895  |
| 73 | 嵯峨遺跡        | 鎌倉～室町 | 鎌倉時代に亀山殿が築かれて以降、天龍寺、臨川寺、鹿王院などの禅宗系寺院の成立に伴い南北朝期から室町時代に著しく発展した寺院街。室町時代の「応永鈐命絵図」に詳しく寺院配置が描かれている。     | 937  |
| 74 | 妙光寺境内       | 鎌倉～江戸 | 市史跡。無本覚心（法燈円明国師、1207～1298）を開山として弘安8年（1285）に開創された禅宗寺院で、現在は臨済宗建仁寺派に属する。                            | C939 |
| 75 | 等持院旧境内      | 室町～   | 暦応4年（1341）、足利尊氏が天龍寺開山夢窓国師を迎え創建。のち、足利将軍家歴代の菩提所とされる。                                               | 173  |
| 76 | 妙心寺旧境内      | 室町～   | 国史跡・名勝。暦応年間（室町初期）花園上皇の発願により創建。                                                                   | A806 |
| 77 | 竜安寺庭園       | 室町～   | 国史跡・特別名勝・名勝。宝徳2年（1450）、室町幕府管領・細川勝元が創建の寺院、応仁の乱で焼失、子・政元が再建。平成6年世界遺産登録。元は四円寺の一寺院、円融寺（永観3年〔984〕建立）跡。 | A819 |
| 78 | 龍翔寺跡        | 室町    | 後宇多天皇が円通大応国師の没後、離宮を寺とした。京五山十刹の十位に列せられた。現在は大徳寺境内に移転。                                              | 896  |
| 79 | 海正寺跡        | 中世    | 臨済宗の僧侶である深山正虎によって建てられた寺院。現在も地名が残る。                                                               | 941  |
| 80 | 宇多野上ノ谷廃寺    | 中世～近世 | 史跡妙光寺境内の東側の谷筋に展開する寺院跡。複数の平坦面で構成される。                                                              | 940  |
| 81 | 仁清窯跡        | 江戸    | 江戸前期、京焼の陶工、野々村仁清が御室仁和寺の門前に開いた窯跡。                                                                 | 900  |
| 82 | 鳴滝乾山窯跡      | 江戸    | 尾形乾山が元禄12年（1699）に築いた窯跡。                                                                          | 899  |

※左端の番号以外は、文化財保護課が運用する「京都市遺跡地図提供システム（<https://keikan-gis.city.kyoto.lg.jp/kyotogis/iseki>）」を参考に作成した。「遺構番号」は同システム掲載のものである。

## 2 既往の調査（図5、表2）

調査地点は草木町遺跡の中央やや南西寄りにあたり、今回の開発計画地北半の一部である。

今回の調査地が含まれる草木町遺跡では、これまでに、公共下水道敷設工事などに伴う広域立会調査や京都市立常盤野小学校校内における試掘・発掘調査などが行われてきた。草木町遺跡で実施された既往の発掘調査、試掘調査、立会・詳細分布調査については、調査地点および遺跡既往調査地点図（図5）と草木町遺跡既往調査一覧表（表2）に示した。

遺跡の周縁にはかつて大型の古墳が点在したことが知られている。東南には常盤柏木1号墳（前方後円墳）、常盤馬塚古墳（墳形不明）、西には巽古墳（円墳か）など、いずれも古墳時代後期のものである。当地周辺にもかつては古墳が多く分布していたと考えられる。巽古墳は宅地開発に伴い、破壊をうけており、1986年に緊急調査（調査④）を実施した。大半の石は抜き取られていたものの、比較的大きな石材を用いた横穴式石室と確認、多量の遺物が出土した。須恵器杯身・杯蓋・高杯・装飾付器台、鉄製品には刀子・釘・鋸・鍬など、金銅装馬具には雲珠・飾金具・装飾鉾・鉸具・鞍などがあり、豊富な内容であった<sup>(8)</sup>。当地域の首長墓の一つとみられる。

1988年から1990年にかけて、一帯の道路において上下水道の入替などの工事が実施され、それに伴って広域立会調査が行われた（図5の黒線、および網掛箇所⑧～⑫）。平安時代前期を中心として、平安時代後期・室町時代に至る土坑、柱穴、溝などの遺構と遺物包含層が確認された<sup>(9)</sup>。

これらの成果を受けて、2001年から2002年にかけて、京都市立常盤野小学校校内において、プールと体育館の建替工事に伴い試掘および発掘調査が行われた（調査⑭）<sup>(10)</sup>。鎌倉時代の掘立柱建物・柵・溝・土坑、室町時代の溝・柵・土坑などが検出された。

その後も試掘調査、立会調査が行われてきた（調査⑮～⑳）が、顕著な成果はみられなかった。

これらの成果、および文化財保護課が当地で事前に実施した試掘調査の成果から、本調査でも平安時代、鎌倉時代、室町時代の遺構・遺物の検出が見込まれた。



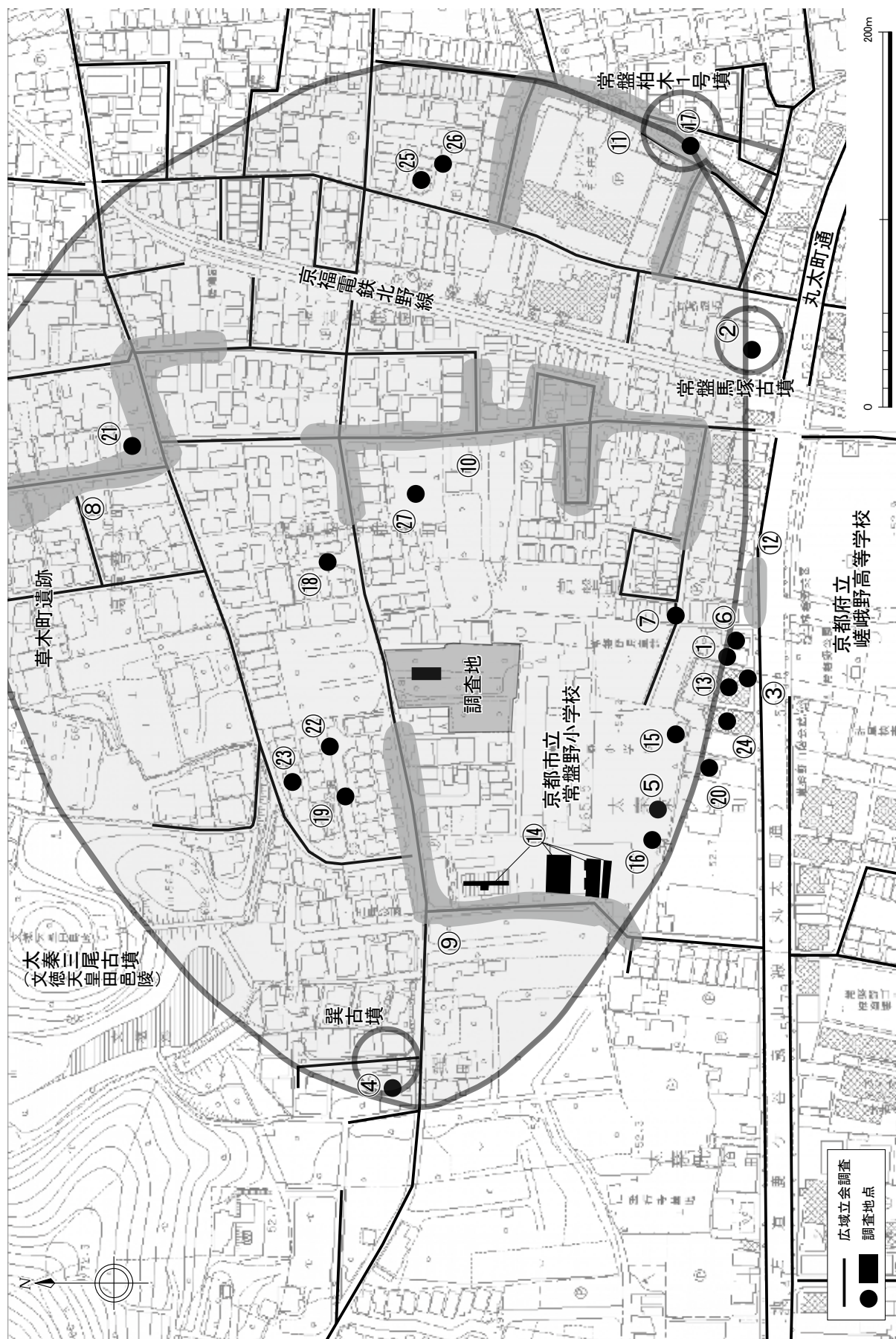


図5 調査地点および遺跡既往調査地点図 (1 : 3,000)

表2 草木町遺跡既往調査一覧表

|   | 遺跡名        | 調査法   | 調査成果概要                                                                                   | 掲載文献                                                                                                 |
|---|------------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① | 散布地        | 立会    | 時期不明の土坑2基                                                                                | 埋文研『京都市内遺跡試掘・立会調査報告』昭和55年度 京都市埋蔵文化財調査センター 1981年                                                      |
| ② | 散布地        | 立会    | 検出なし                                                                                     | 埋文研『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和59年度 京都市文化観光局 1985年                                                             |
| ③ | 散布地        | 立会    | 検出なし                                                                                     | 埋文研『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和59年度京都市文化観光局 1985年                                                              |
| ④ | 異古墳        | 試掘    | 古墳時代後期の古墳横穴式石室の一部、遺物多量出土                                                                 | 木下保明「異古墳(UZ11)」『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和61年度 京都市文化観光局・埋文研 1987年<br>木下保明「異1号墳」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1989年 |
| ⑤ | 散布地        | 立会    | 検出なし                                                                                     | 埋文研『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和61年度京都市文化観光局 1987年                                                              |
| ⑥ | 散布地        | 立会    | 検出なし                                                                                     | 埋文研『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和62年度京都市文化観光局 1988年                                                              |
| ⑦ | 三瓦山古墳群・散布地 | 立会    | 平安時代前期の遺物包含層                                                                             | 埋文研『京都市内遺跡試掘立会調査概報』平成元年度京都市文化観光局 1990年                                                               |
| ⑧ | 常盤3地区      | 広域立会  | 平安時代および平安時代前期の遺物包含層・土坑、室町時代前期の遺物包含層                                                      | 埋文研『京都市内遺跡試掘立会調査概報』平成元年度京都市文化観光局 1990年                                                               |
| ⑨ |            |       | 平安時代の遺物包含層・土坑                                                                            | 埋文研『京都市内遺跡試掘立会調査概報』平成2年度京都市文化観光局 1991年                                                               |
| ⑩ |            |       | 平安時代および平安時代前期の遺物包含層・土坑・溝・柱穴                                                              | 埋文研『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1993年                                                                        |
| ⑪ |            |       | 平安時代の遺物包含層                                                                               | 埋文研『京都嵯峨野の遺跡－広域立会調査による遺跡調査報告－』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊 1997年                                              |
| ⑫ |            |       | 平安時代後期の遺物包含層・土坑・溝                                                                        | 埋文研『京都嵯峨野の遺跡－広域立会調査による遺跡調査報告－』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊 1997年                                              |
| ⑬ | 散布地        | 立会    | 検出なし                                                                                     | 埋文研『京都市内遺跡立会調査概報』平成4年度 京都市文化観光局 1993年                                                                |
| ⑭ | 草木町遺跡      | 試掘・発掘 | 鎌倉時代から室町時代の掘立柱建物・溝・土坑・柱穴                                                                 | 埋文研『草木町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2001-13 2003年                                                             |
| ⑮ | 草木町遺跡      | 試掘    | GL-0.8mで黄褐色砂泥の地山検出、顕著な遺構なし                                                               | 京都市埋蔵文化財調査センター『京都市内遺跡試掘調査概報 平成16年度』京都市文化市民局 2005年                                                    |
| ⑯ | 草木町遺跡      | 立会    | GL-1.07～1.18m、平安時代中期の包含層を切って鎌倉時代・時期不明の土坑8基                                               | 埋文研『京都市内遺跡立会調査報告 平成19年度』京都市文化市民局 2008年                                                               |
| ⑰ | 草木町遺跡      | 立会    | GL-0.3～0.6mまで現代盛土                                                                        | 埋文研『京都市内遺跡立会調査報告 平成20年度』京都市文化市民局 2009年                                                               |
| ⑱ | 草木町遺跡      | 試掘    | GL-0.6mで時期不明の柱穴・溝・ピットなど、遺構希薄                                                             | 文化財保護課『京都市内遺跡試掘調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年                                                            |
| ⑲ | 草木町遺跡      | 試掘    | GL-0.3mで室町時代の瓦溜・土坑・ピット、鎌倉時代の土坑、土師器多量出土                                                   | 文化財保護課『京都市内遺跡試掘調査報告 平成27年度』京都市文化市民局 2016年                                                            |
| ⑳ | 草木町遺跡      | 立会    | GL-0.28m以下、黄褐色シルト混礫（地山）                                                                  | 文化財保護課『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成27年度』京都市文化市民局 2016年                                                          |
| ㉑ | 草木町遺跡      | 立会    | GL-0.38mで明黄褐色砂礫混粘質土の地山、平安時代の柱穴2基                                                         | 文化財保護課『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成28年度』京都市文化市民局 2017年                                                          |
| ㉒ | 草木町遺跡      | 立会    | 1 T：GL-0.5m時期不明遺物包含層、-0.58～0.68m鎌倉時代の遺物包含層<br>2 T：GL-0.34mで鎌倉時代の遺物包含層、-0.46m以下明黄褐色泥土（地山） | 文化財保護課『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成28年度』京都市文化市民局 2017年                                                          |
| ㉓ | 草木町遺跡      | 立会    | 巡回時工事終了                                                                                  | 文化財保護課『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成29年度』京都市文化市民局 2018年                                                          |
| ㉔ | 草木町遺跡      | 立会    | GL-0.5mまで盛土                                                                              | 文化財保護課『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成29年度』京都市文化市民局 2018年                                                          |
| ㉕ | 草木町遺跡      | 試掘    | GL-0.8mでにぶい黄褐色粘質土の地山、室町の溝・ピット                                                            | 文化財保護課『京都市内遺跡試掘調査報告 令和2年度』京都市文化市民局 2021年                                                             |

|    | 遺跡名   | 調査法 | 調査成果概要                 | 掲載文献                                      |
|----|-------|-----|------------------------|-------------------------------------------|
| ②⑥ | 草木町遺跡 | 立会  | GL-1.5 mまで盛土           | 文化財保護課『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和2年度』京都市文化市民局2021年 |
| ②⑦ | 草木町遺跡 | 立会  | GL-0.16 mで褐色細砂混シルト（地山） | 文化財保護課『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和4年度』京都市文化市民局2023年 |

埋文研→財団法人・公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所

文化財保護課→京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課

## 第Ⅲ章 調査成果

### 1 基本層序（図6、図版2－1）

調査地の履歴としては江戸時代以降、戦前にかけては田畑として使われており、その後、造園業者の樹木園とされ、現在に至っている。

地表面の標高は調査区北端で56.22m、南端で56.15mとほぼ平坦である。基本層序は、おおそ地表から0.3mまでが樹木園時の盛土、その下層に田畑であった時の耕作土が厚さ0.2～0.3mあり、その下面が基盤層（地山）となる。樹木園時に行われた樹木の根回し等に伴う重機による掘削の痕跡が基盤層にまで達するものがあり、特に調査区北半に多くあった。基盤層上面の標高は調査区の北端で56.00m、南端で55.65m、南北約16mの距離で比高差0.35mと緩やかに北から南へ傾斜している。基盤層は10YR6/6明黄褐色シルト（細粒砂～中粒砂を少量含む）である。部分的に小礫～中礫がまとまって分布し、その周囲に黒褐色シルトなどが下層に入り込む堆積状態が数箇所みられた。これらは比較的古い時代に、倒木などによって下層の礫層が根ごと持ち上げられた痕跡と考えられる。

### 2 遺構（図7・8、表3、図版1～3・4－1）

遺構は基盤層上面で検出した。おおむね室町時代以降のものとみられる。なお、調査区の中央やや東寄りに幅約1mで南北に続く溝状の浅い掘り込みは、事前に実施された文化財保護課による試掘調査坑である。

遺構は東西方向の溝、土坑、柱穴、ピットなどである。以下、概略を記す。

表3 遺構概要表

| 時代     | 遺構                                                                                   | 備考 |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 室町時代以降 | 溝 038・039・040・041・043、溝状遺構 020・022、土坑 050、柱穴 042、ピット 027・028・031・032・033・047・053・054 |    |

#### 溝038・039・040（図版2－2～5）

調査区北半で検出した東西方向の溝である。いずれも西でやや南に振れて、ほぼ平行している。いずれも立ち上がりが浅く、底面が幅広で平坦な「U」字状の断面である。溝038は幅1.10m、深さ0.18m、底面の標高は東端で55.55m、西端で55.55mである。溝039は幅0.82m、深さ0.15m、底面の標高は東端で55.70m、西端で55.48mである。溝040は幅1.00m、深さ0.15m、底面の標高は東端で55.72m、西端で55.73mである。溝038・040は底面がほぼ平坦であるが、溝039は東が高く西が0.22m低くなっている。埋土はいずれも10YR5/4にぶい黄褐色～10YR6/3にぶい黄橙色シルトと10YR6/6明黄褐色シルト（地山）の小ブロックが交じり合うもので、水流の痕跡はなく、

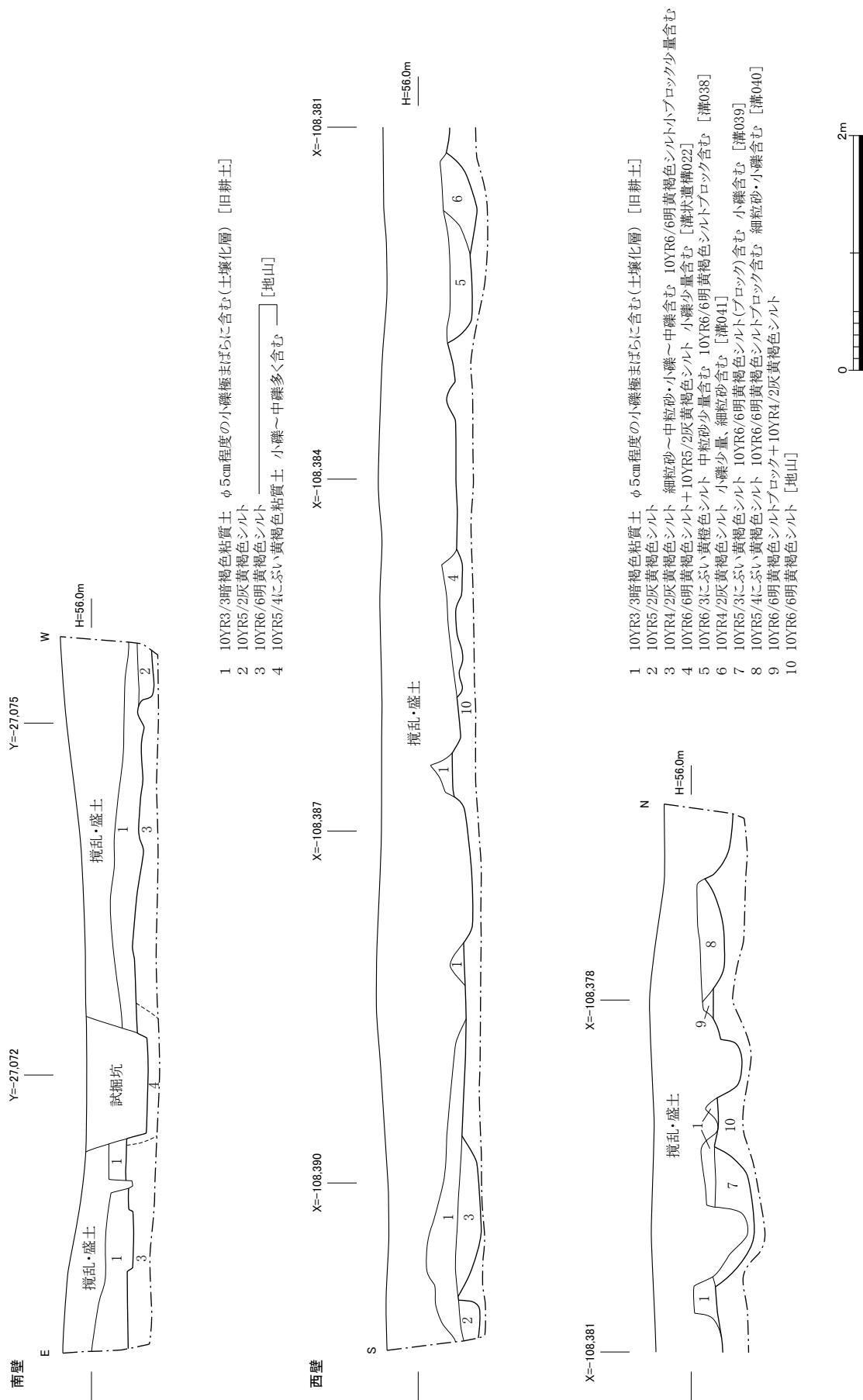


図6 調査区南壁・西壁断面図(1:50)



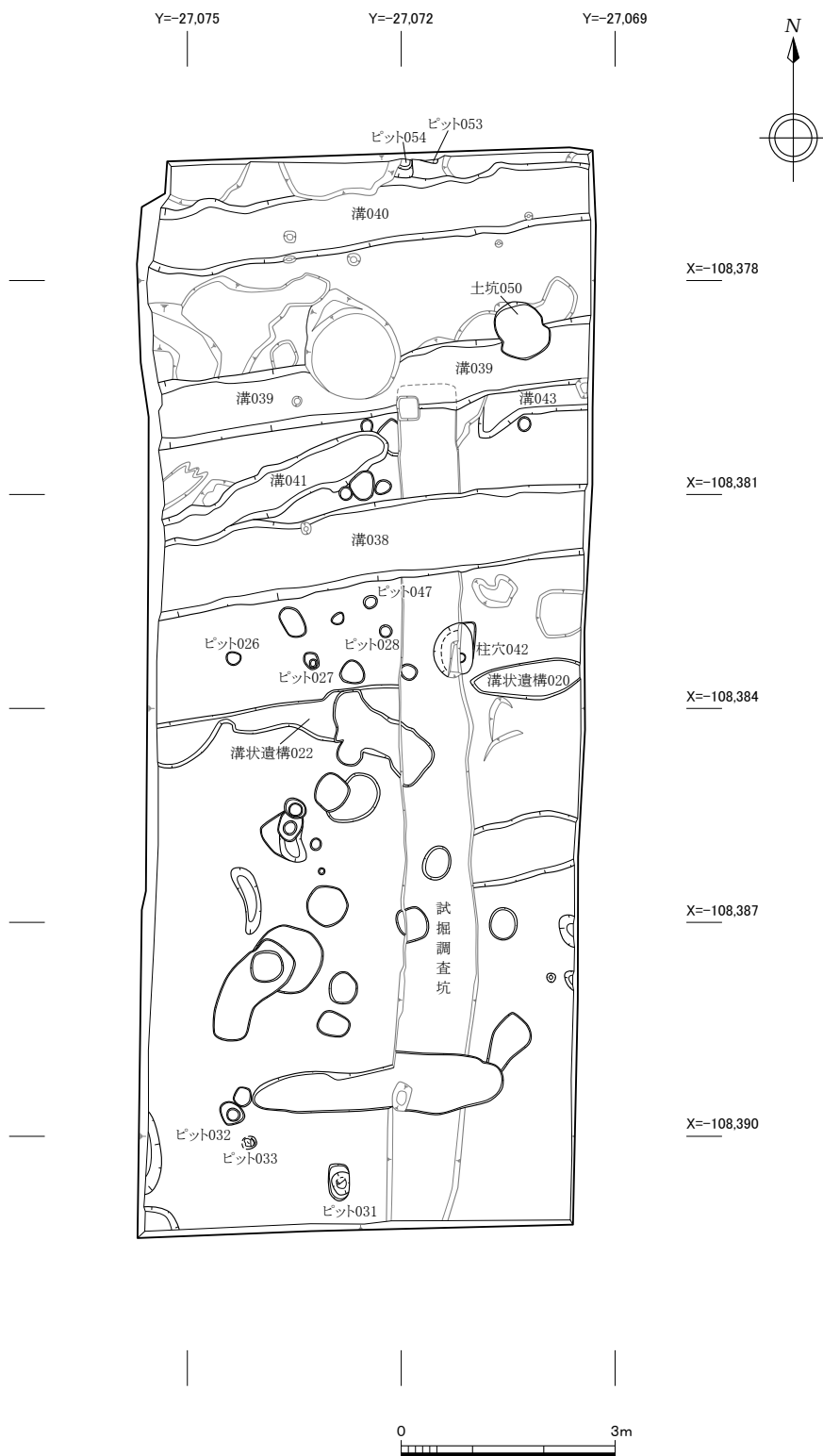


図7 調査区平面図（1：100）

掘削後間もなく埋められた印象である。溝038と溝039の間は1.30 m、溝039と溝040の間は1.25 mである。溝039からは土師器、瓦質土器が出土した。

#### 溝状遺構020・022

調査区中央やや南で検出した。北肩ラインが直線的に続いており、東西方向の溝の北肩部とみられる。埋土は10YR5/2灰黄褐色シルトと10YR6/6明黄褐色シルトのブロックが交じり合っており、南肩が削平されてしまっているが、先述の溝038～040と同様に西でやや南に振れており、同様の溝とみられる。幅0.5 m前後、深さ0.1 m。溝038南肩からの距離は約1.4 mである。

#### 溝041・043（図版2－3）

調査区北半で検出した北東－南西方向の溝である。東半は浅く、中央から西半にかけては幅0.7 m、深さ0.20 m、断面は「U」字状となる。溝039、溝038に切られる。埋土は10YR4/2灰黄褐色シルト、細粒砂混じり、小礫を少量含む。埋土から土師器、施釉陶器、瓦、鉄製品（釘）などが出土した。

#### 土坑050（図8、図版3－1・2）

調査区北半東寄りで検出した。溝039に南半が切られる。検出面では東西0.6 m、南北約0.8 mの平面楕円形である。深さは0.4 mあり、壁面を抉るように掘削されて、最大径0.8 m前後の下膨れのいわゆる「袋状土坑」である。底面はほぼ平坦である。埋土は底面に厚さ0.1 m程度の10YR4/2灰黄褐色シルトが堆積した後、10YR5/3にぶい黄褐色シルトと10YR6/4にぶい黄褐色シルトのブロックが交じり合う土で埋められている。遺物は土師器小片が1点出土した。

#### 柱穴042（図8）

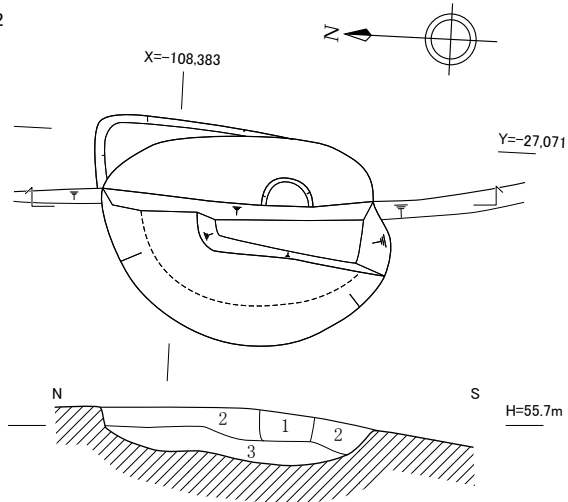
調査区中央部で検出、事前の試掘調査において西半が検出され、試掘調査区の東壁際が幅約0.1 m分掘削されていた。南北0.6 m、東西0.5 mの楕円形の平面で、中央に直径0.15 mの柱当を検出した。周辺を隈なく精査したが、本柱穴と関連する柱穴は検出できなかった。土師器極小片が出土した。

#### ピット（図8）

ピットは027・028・047を調査区中央、031・032・033を南端、053・054を北端で検出した。ピット027・028・047はいずれも径0.2 m前後の円形、検出面からの深さは027が0.15 m、028は0.06 m、047は0.10 mである。ピット031は径0.3 m、深さ0.2 m、ピット032は南北0.4 m・東西0.35 mの楕円形、深さ0.15 mである。ピット033は径0.2 m、深さ0.15 mで底面に根石を入れていた。根石は長径0.17 mの石を割って、一方を底面に平坦に、もう一方を東壁に立て掛けるよう据えていた（図版4－1）。ピット053は大半が調査区外で規模は不明である。ピット054は北半が調査区外、西端は攪乱に切られるが、径約0.2 mの円形と考えられる。深さは0.2 mである。

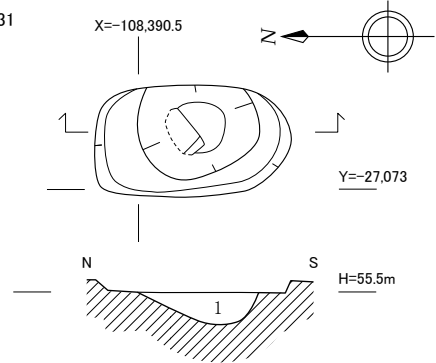
これらのピットはいずれも単体での検出で、建物に復元できなかった。

柱穴042



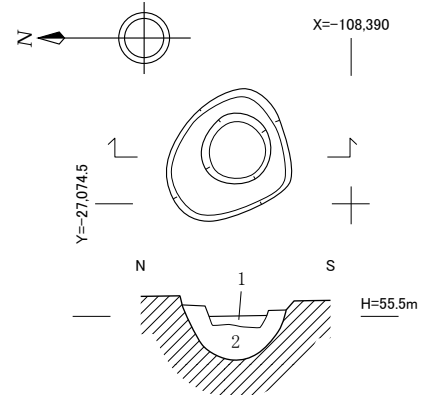
- 1 10YR3/2黒褐色シルト
  - 2 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 小礫少量含む
  - 3 10YR6/6明黄褐色シルト
- 10YR4/3にぶい黄褐色シルト小ブロック含む 小礫含む

ピット031



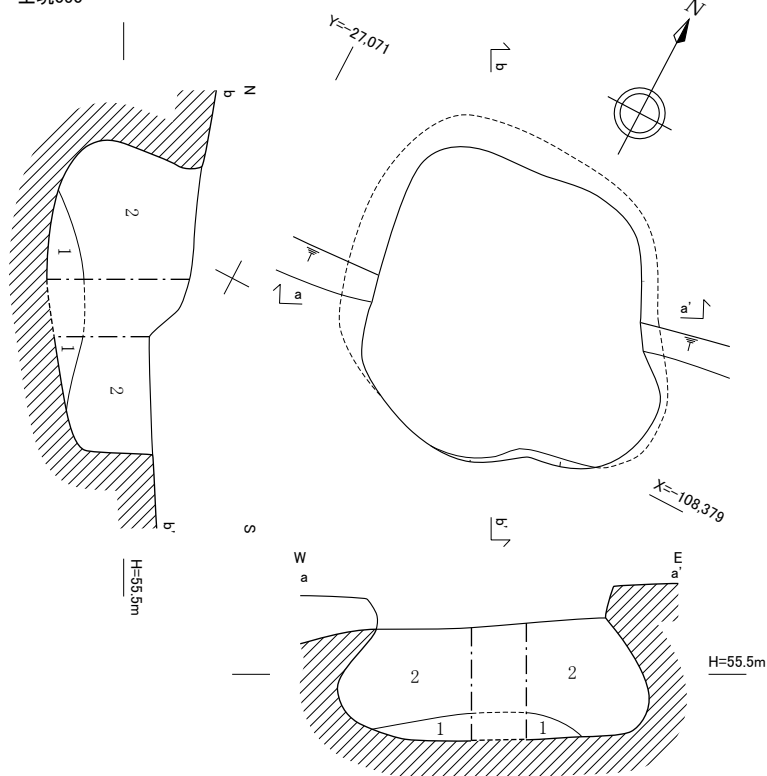
- 1 10YR2/3黒褐色シルト 細粒砂含む

ピット032



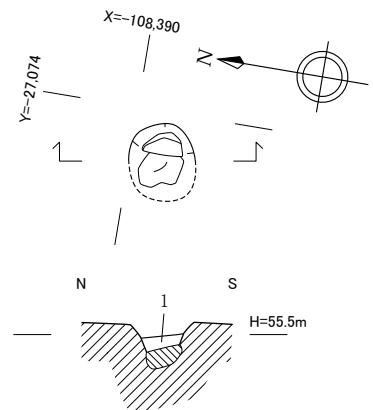
- 1 10YR4/2灰黄褐色シルト 細粒砂少量含む
- 2 10YR5/3にぶい黄褐色シルト

土坑050



- 1 10YR4/2灰黄褐色シルト
- 2 10YR5/3にぶい黄褐色シルト 10YR6/4にぶい黄褐色シルト小ブロック含む 小礫少量含む

ピット033



- 1 10YR4/2灰黄褐色シルト

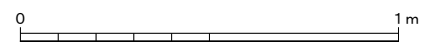


図8 個別遺構実測図 (1:20)

### 3 遺物（図9、図版4－2）

出土遺物は、調査全体でコンテナケースに1箱であった。重機掘削時や遺構検出時に出土した近世以降のものが大半である。

表4 遺物概要表

| 時代      | 内容                                      | コンテナ数 | A ランク点数                                      | B ランク<br>点数 | C ランク<br>箱数 |
|---------|-----------------------------------------|-------|----------------------------------------------|-------------|-------------|
| 室町時代    | 土師器、須恵器、施釉陶器、<br>瓦質土器、瓦、鉄製品、炭           |       | 土師器1点、施釉陶器1点、<br>瓦質土器1点、瓦(丸瓦)1点、<br>鉄製品(釘)1点 |             |             |
| 江戸時代～現代 | 土師器、青磁、白磁、染付、<br>瓦質土器、瓦、鉄製品、<br>ガラス製品など |       |                                              |             | 1           |
| 合計      |                                         | 2箱    | 1箱(5点)                                       | 0点          | 1箱          |

※Aランク遺物抽出に伴いコンテナ数が1箱増加した。

#### 溝039出土遺物（1）

土師器小片と瓦質土器が出土した。土師器はいずれも極小片であった。

瓦質土器（1）は鍋、口径27.7cm、復元高12.6cm、底径19.6cmである。体部が直線的に外へ開き、口縁部は弱く外へ屈曲して内湾気味に立ち上がる。口縁端部はやや内傾する端面を持つ。底部は鈍角に屈曲し弱く突出する丸底になると思われる。外面は指オサエとナデで成形し、内面は横方向のヘラミガキで仕上げる。外面には煤の付着がみられる。胎土は10YR8/3浅黄橙色で1mm前後の砂粒を含む土師質で、表面は内外面とも炭素吸着によりN5/0灰色を呈する。焼成は良好である。管見による限りでは、この形状の鍋は、市内では淀水垂大下津遺跡、室町殿跡・上京遺跡など、近隣では奈良県橿原市石川土城遺跡など、また備後・草戸千軒町遺跡に類例がみられる<sup>(11)</sup>。いずれも15世紀後半から16世紀初頭に位置付けられるようである。

#### 溝041出土遺物（2～5）

土師器小片、施釉陶器片、瓦片、壁土の一部とみられる土製品、鉄製品（釘）などが出土した。

土師器（2）は強い指オサエにより外反して開き、端部を上部につまみ上げ丸く収める小型の皿Nの口縁部片である。胎土は0.5mmの砂粒を含むが密で、7.5YR7/4にぶい橙色を呈する。9A～9C段階のいずれか、15世紀代に属する。

施釉陶器は瀬戸・美濃の長石釉丸皿（3）の口縁部片である。内湾して立ち上がり、端部には外傾する小さな面を巡らせる。胎土は密で10YR8/2灰白色、0.5mmの砂粒をごく少量含む。内外面とも10YR8/1灰白色の釉が施され、貫入がみられる。

瓦は丸瓦（4）、胴部から玉縁部の破片である。焼成は良好で、胎土は密で2mm以下の砂粒を含み、色調はN6/0灰色である。胴部凸面は縄目叩きの後、丁寧にナデで消している。凹面には布目痕が残る。玉縁部凸面はナデで仕上げ、凹面は胴部からなだらかに移行する。分割成形によるとみられ、側端面はケズリにより面を持たせ、ナデで仕上げる。胴部は厚さ2.7cmである。

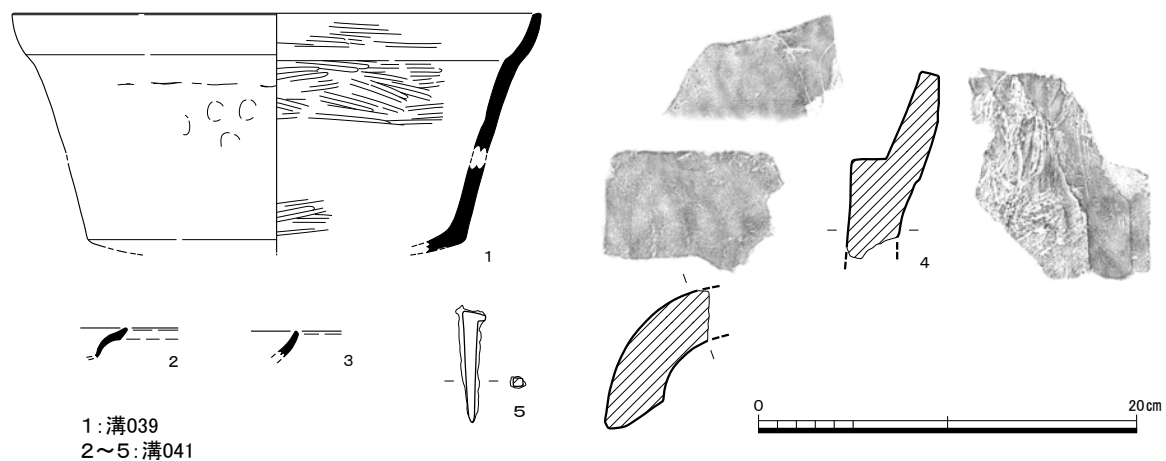


図9 出土遺物実測図（1：4）

鉄製品は釘（5）である。断面が方形の、いわゆる和釘で、上端を折り曲げて頭部とする頭巻釘に属する。長さは6.2cm、幅は上端で0.7cm、下端で0.3cm、厚さは0.5cmである。全体が錆に覆われている。



## 第Ⅳ章 まとめ

平安時代の集落遺跡とされる草木町遺跡の中央やや南西寄りの箇所で発掘調査を行った。事前の試掘調査の結果や周辺の既往調査などから平安時代、および鎌倉時代から室町時代の集落跡に関する遺構・遺物の出土が期待された。

今回の調査では、室町時代以降と考えられる溝・土坑・ピットなどを検出した。

溝は、ほぼ等間隔で同規模の平行する東西方向の溝3条（溝038・039・040）、あるいは4条（溝状遺構020・022）と、これらに先行する北東－南西方向の溝（溝041・043）を検出した。平行する東西方向の溝群はいずれも浅く、底面が平坦で東西間での高低差もなく掘削されており、排水が目的とは考えにくい。いずれも埋土に土壌化がみられず、掘削した地山（基盤層）の小ブロックが多く混じっており、掘削後比較的早い段階で埋め戻されたと考えられる。何らかの作物などの植え付けなどにかかわる遺構ではないかと考えられる。一方、北東－南西方向の溝は北東が浅く、南西が深くなっており、排水を目的に掘削されたと思われる。切り合い関係から、北東－南西方向の溝が埋没後に東西方向の溝群が掘削されたことがわかる。

土坑は溝039の下層で検出した土坑050がある。断面の形状が上部が窄まり下膨れで底面が平坦な、いわゆる袋状土坑である。貯蔵用として掘削されたものと思われるが、埋土からは土師器小片が1点出土したのみであった。あるいは有機物が容れられていたのかもしれない。

建物に関連するとみられる柱穴042、ピット027・028・031～033・047・053・054を検出したが、いずれも建物として復元できるものはなかった。

今回の調査では、当地で少なくとも室町時代以降に人の活動の痕跡があったことを確認した。これまであまり調査されてこなかった草木町遺跡の遺構の分布状況の一端を明らかにすることができた。草木町遺跡として認識されている平安時代や鎌倉時代から室町時代のみならず、「既往の調査」の項でみたように遺跡周縁には、すでに消滅してしまっているが古墳時代後期の比較的規模の大きな古墳の存在が知られている。当地一帯には古墳群に関する遺構・遺物<sup>(12)</sup>や、それらを築造した集落の存在も想定される。今後周辺における調査の成果に期待したい。

註

- (1) 中川和哉「淀川流域の旧石器文化の様相」『京都府埋蔵文化財論集』第2集 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1992年
- (2) 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所『村ノ内町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2010-3 2010年
- (3) 財団法人京都市埋蔵文化財研究所『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1991年
- (4) 田辺昭三・佐原 眞「京都市梅が畑出土の銅鐸」『日本考古学協会 昭和39年度大会研究発表要旨』8-9 1964年  
菊池 望「梅ヶ畑遺跡出土銅鐸」『リーフレット京都』No.389 生産・技術14 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館 2021年
- (5) 註(3)と同じ。
- (6) 広隆寺(旧境内)の創建については、同じ葛野郡に所在する北山背最古の古代寺院・北野廃寺との関連で、諸説あって結論をみていない。これまでの調査事例からは北野廃寺が飛鳥時代前半と古く、広隆寺旧境内が飛鳥時代後半と後出である。また、『広隆寺縁起』(『朝野群載』巻2 承和3年)に広隆寺が当初の寺地から現在地へ移転したことが記されており、移転の時期は不詳であるが、その旧寺地が北野廃寺とする説もある。
- (7) 国立国会図書館の運営するホームページ「NDL Lab (<http://lab.ndl.go.jp/>)」内の次世代デジタルライブラリーにて全編デジタル化された有馬祐政編『勤王文庫 第参編 山陵記集』(大日本明道会 1921年)に拠った。
- (8) 表2-④「掲載文献」と同じ。
- (9) 財団法人京都市埋蔵文化財研究所『京都嵯峨野の遺跡―広域立会調査による遺跡調査報告―』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊 1997年
- (10) 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所『草木町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2001-13 2003年
- (11) 同様の形状の瓦質土器鍋の出土した遺構と掲載報告書は以下の通り。  
淀水垂大下津遺跡：堀2123新段階(下層)／公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所『長岡京跡・淀水垂大下津遺跡』京都市埋蔵文化財研究所報告2021-16 2022年  
室町殿跡・上京遺跡：井戸402／株式会社文化財サービス『室町殿跡・上京遺跡発掘調査報告書』文化財サービス発掘調査報告書第33集 2025年  
橿原市石川土城遺跡：SD240灰褐土／公益財団法人元興寺文化財研究所『石川土城遺跡―平成28年度発掘調査報告書―』2018年  
そのほか、宇野隆夫「中世食器様式の意味するもの」『国立歴史民俗博物館研究報告』第71集 1997年の422頁の図19「中世における羽釜・無耳鍋地帯と内耳鍋地帯」に「吉備型」として、また小野正敏編『図解・日本の中世遺跡』東京大学出版会 2001の139頁の図「中世後葉の土製煮沸具」に「備後」として掲載されており、備後・草戸千軒町遺跡などに類例を見ることができるようである。
- (12) 実際に、近隣の樹木園に以前は古墳の石室が存在していたという証言があった。

# 図 版







1. 調査区全景1（北から）



2. 調査区全景2（南西から）





1. 調査区南壁断面（北東から）



2. 溝038断面（東から）



3. 溝038・041断面（東から）



4. 溝039断面（東から）



5. 溝040断面（東から）





1. 土坑050断面（南西から）



2. 土坑050完掘状況（南東から）





1. ピット033根石検出状況（北西から）



2. 出土遺物

報告書抄録

|                    |                                                                     |             |                 |                   |                                             |                                       |                   |          |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------|-------------|-----------------|-------------------|---------------------------------------------|---------------------------------------|-------------------|----------|
| ふりがな               | くさきちょういせきはつくつちょうさほうこくしょ                                             |             |                 |                   |                                             |                                       |                   |          |
| 書名                 | 草木町遺跡発掘調査報告書                                                        |             |                 |                   |                                             |                                       |                   |          |
| シリーズ名              | 文化財サービス発掘調査報告書                                                      |             |                 |                   |                                             |                                       |                   |          |
| シリーズ番号             | 第35集                                                                |             |                 |                   |                                             |                                       |                   |          |
| 編著者名               | 高橋 潔 興梠千春                                                           |             |                 |                   |                                             |                                       |                   |          |
| 編集機関               | 株式会社 文化財サービス                                                        |             |                 |                   |                                             |                                       |                   |          |
| 所在地                | 〒601-8127 京都市南区上鳥羽北花名町8番地                                           |             |                 |                   |                                             |                                       |                   |          |
| 発行所                | 株式会社 文化財サービス                                                        |             |                 |                   |                                             |                                       |                   |          |
| 発行年月日              | 2025年5月20日                                                          |             |                 |                   |                                             |                                       |                   |          |
| 所収遺跡名              | 所在地                                                                 | コード         |                 | 北緯                | 東経                                          | 調査期間                                  | 調査面積              | 調査原因     |
|                    |                                                                     | 市町村         | 遺跡番号            |                   |                                             |                                       |                   |          |
| くさきちょういせき<br>草木町遺跡 | きょうとしうきょうく<br>京都市右京区<br>ときわくさきちょう<br>常盤草木町<br>18・19・20<br>ばんち<br>番地 | 26100       | 901             | 35度<br>01分<br>21秒 | 135度<br>42分<br>12秒                          | 2025年<br>1月27日<br>～<br>2025年<br>2月18日 | 90 m <sup>2</sup> | 宅地<br>造成 |
| 所収遺跡名              | 種別                                                                  | 主な時代        | 主な遺構            |                   | 主な遺物                                        |                                       | 特記事項              |          |
| 草木町遺跡              | 集落跡                                                                 | 室町時代以降      | 溝、土坑、<br>柱穴、ピット |                   | 土師器、施釉陶器、<br>磁器、瓦質土器、<br>瓦、炭                |                                       |                   |          |
|                    |                                                                     | 江戸時代<br>～現代 |                 |                   | 土師器、青磁、白磁、<br>染付、瓦質土器、<br>瓦、鉄製品、<br>ガラス製品など |                                       |                   |          |

文化財サービス発掘調査報告書 第35集

## 草木町遺跡発掘調査報告書

発行日 2025年5月20日

株式会社 文化財サービス  
編集 〒601-8127 京都市南区上鳥羽北花名町8番地  
TEL 075-672-6800

三星商事印刷株式会社  
印刷 〒602-8358 京都市上京区七本松通下長者町下る三番町273  
TEL 075-467-5151